

スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障害のある人たちに、日々のトレーニングと競技会を通じて、自立と社会参加をサポートする国際的なスポーツ組織です。SOでは、これらのスポーツ活動に参加する知的障害のある人たちをアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーと一緒に活動を支えています。SOの活動は、すべて非営利活動で、運営はボランティアの方々の積極的な意思と、善意の寄付によって進められています。現在、世界170ヶ国以上で370万人のアスリートと85万人以上のボランティアが日常的なスポーツ・トレーニングに楽しく参加しています。競技会は地区レベルから世界レベルまであり、世界大会は夏季・冬季共に4年毎に開かれています。国内でも全ての都道府県に普及していて、富山では現在、約130名のアスリート会員が10種の競技種目に取り組んでいます。

写真提供：スペシャルオリンピックス日本



SO冬季世界大会・ピョンチャン 林さんと毛利さんの溢れる笑顔

■今季のエッセイ

一緒に楽しむ仲間として

私がSOに参加するきっかけとなったのは、大学講義の一環としてフロアホッケープログラムに体験参加したことでした。大学では特別支援教育を学んでいますが、その当時から「支援者」として「被支援者」に「なにかをしてあげる」という考え方にに基づき身を削ってボランティア活動に使命を燃やしているというタイプの学生ではなく、「自分が楽しんで参加できるか」という視点で様々な活動に携わっていました。そんな中で出会ったSOは私にとって大変楽しく魅力的なものであり、夢中になるまでにそう時間はかかりませんでした。

SOのどのような点がそれほど楽しく魅力的なのでしょう。まず第一に、スポーツそれ自体の楽しさがあるでしょう。アスリートにとっては自分の技能・記録が高まることや仲間と協力してプレーすること、コーチにとってはアスリートの力が高まっていくことや共に身体を動かすこと、それぞれの競技にそれぞれの喜びや楽しさがあります。

ですが、私の考えるSOの魅力はそういった点だけではありません。SOでは競技に関する技能や知識以上に、アスリ

ノンスポーツプログラム委員長 高緑 千苗

ート同士・アスリートとコーチとの信頼関係が、活動を楽しむ上で非常に重要になってきます。スポーツプログラムにおいて仲間との繋がりを築いていくこと、競技会や派遣大会の場面で絆を実感できること、それこそがSOの最大の魅力ではないでしょうか。私がSOに参加する上で大きな転機となったのも、NG福島においてアスリートや他のコーチ、応援団のファミリーとの強い絆を感じた経験でした。

“SOの活動を多くの方に楽しんでもらいたい。既に参加している方にはより深く魅力を感じてもらいたい”小さなきっかけからSOに参加した私が、今ではこのように感じています。そのような思いから、アスリートとコーチが楽しく過ごす時間の中で派遣大会に向けた自信を高めるきっかけとして、6月には初の試みであるキャンプも企画しています。

「一緒に楽しむ仲間」としてより多くの方にSOにかかわっていただけたら、そして、少しでもそのためのお手伝いをできたらと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

■2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン

2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャンが大韓民国・ピョンチャン（平昌）で開催されました。1月29日～2月5日の8日間の大会に、SON・富山からは2名のアスリートと2名のコーチが参加しました。

開会式では、イ・ミョンバク大統領（当時）や、ミャンマーの民主化指導者アウン・サン・スー・チーさん、フィギュアスケートのキム・ヨナ選手が参加して、111カ国の国々から3000名を超える選手団と、約8000名のボランティアが参加する、大きな世界大会となりました。

大会では、林知佳さんが中級・スーパー大回転で金メダル、毛利優樹さんが回転で銀メダルを獲得しまし

た。また、戸田武宏コーチが参加したフロアホッケーでは日本チームが金メダルを、金山敦コーチが参加したスノーシューイングでは、リレーチームが金メダルと銅メダルを獲得するなど、それぞれの競技において、輝かしい成績をおさめました。

富山から参加の4名は、荒天のため急遽1月25日に小松空港から羽田空港に移動するというトラブルに見舞われましたが、無事2月6日に帰国することができました。現地・高麗大学でのホストタウンプログラムでは現地のボランティアとも交流を深めながら、韓国の文化について学びました。アスリートもコーチも充実した大会を過ごし、それぞれに新しい目標や夢を抱くことが出来ました。

■アスリートの感想

世界大会ピョンチャンに参加して

東京、北海道、長野の合宿をして世界大会ピョンチャンにさんかしました。

ヨンピョンスキー場はとてもさむかったけど、私は元気に全部すべてこれました。スーパー大回転で金

アルペンスキー 林 知佳さん

メダルをもらいました。とってもうれしかったです。

閉会式ではキムヨナちゃんのスケートもみれました。いいおもいでになりました。

応援ありがとうございました。

世界大会に参加して

ぼくは初出場で参加しました。

3種目に出場して、回転で銀メダルをとれて、とてもうれしかったです。

スーパー大回転と大回転は残念な結果で終わってしまっ、悔しかったです。

アルペンスキー 毛利 優樹さん

他の国のアスリートは、とても速かったです。いろいろなアスリートを見て、たくさん勉強になりました。ぼくもあんなふうにもっともっと上手になりたいです。

また、機会があれば世界大会に参加したいです。

■ファミリーの感想

『ヨロブン、アニョハセヨ』

大好きな韓流ドラマで覚えた、つたない韓国語を引き下げて知佳の応援に行きました。前回のアイダホ大会に続いて2度目の出場となった運の良い知佳です。今回は、オリエンテーションや合宿など一つ一つの行事がもう感動、それらも大切な思い出になりました。

ピョンチャンへの出発の日が暴風雪になるということで、知佳は一日前の夜に急遽出発、これにはびっくりでした。どうなることかと心配しましたが、無事に韓国へ着いたようで一安心。私も、アイダホのときのすばらしい感動にまた会いたくてピョンチャンへと足を運びました。

開会式の入場行進では、元気に入場する姿にまた感動。（アイダホでは泣きながら入場でした）アルペンスキーの行なわれる“ヨンピョンスキーリゾート”で5日ぶりに会った知佳は、笑顔でとてもリラックスしていました。（沢山食べて元気な様子）

毎日、毎日、知佳のレース2本のためにスキー場に足を運ぶアルペンスキーのファミリー。アイダホでは『これは修行なのか…』と感じながらも、今回、また行きたいと思えるのは、そこにはやっぱりアスリートの笑顔と、なにものにも代えがたい感動があるからだと思えます。

アイダホでは『一つでもメダル』と気負ってしまった私ですが、今回の知佳との約束は『旗門を通過して最後まで滑ってくる』というものでした。それがよかったのか、知佳は初日の“スーパー大回転”で“金メダル”をもらうことが出来ました。これにはびっくりしましたが、素直に嬉しかったです。

林 紀子さん

その後も知佳は、最後まで全レースを約束通り滑って降りてきてくれました。もう大感動です。（途中私が風邪で寝込んで見られなかったレースもあります）

知佳の最後のレースを見終わったとき、頑張った知佳のことを思うと感動で涙が止まりませんでした。泣きながら、富山から出場したもう一人のアスリート、毛利君のレースを見に行きました。毛利君も3種目の最後のレースですばらしい滑りを見せてくれて見事に“銀メダル”！！う～ん泣かせてくれるこの子達。もちろん、他のアスリートの結果にも涙しながらファミリー同士抱き合っ泣いた場面もありました。

大会のスタッフ、ボランティアさんたちにも本当に感謝です。日本語でちゃんと挨拶もしてくれましたし、私のつたない韓国語も誉めてくれました。

アスリートを支えてくださったコーチやスタッフの方々は、大会期間中大変だったと思います、お疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。特にアルペンは大所帯なので、コーチの皆さんは大変だったと思います。

また、ファミリー同士も仲良くなれて、沢山のいい思い出が出来て、本当にピョンチャンに行ってよかったです。

地元富山には、アスリート二人ともとてもいい結果報告ができ、「メダルを見せて！」と、みんなが喜んでくれたのがとても嬉しかったです。支えてくださった皆さまに感謝いたします、ありがとうございました。そして…『ヨロブン、カムサハムニダ』

■ファミリーの感想

世界大会は初めての事だらけで、本当に心配でしたが、事前の合宿やコーチからの電話のおかげで、不安や苦手に思っていたことを一つ一つクリアしていき、機嫌よく出発していきました。特に『飛行機』と『知らない人と一緒に行く』という2つは、とても大きな問題で、何日も前から落ち着かず、独り言でシュミレーションしていました。

現地で熱を出したと聞いた時はどうなるかと思いましたが、3種目全てに出場できました。熱なんて滅多に出さないの、健康面は全く心配していませんでしたが、外国で体調をキープするというのが大変な事だと実感しました。緊張やプレッシャーもあり、初めのうちは相当つらそうでした。でも、そんな中で1つメダルを頂けてとてもうれしく、よく頑張ったと思います。「がんばればできる！」という自信にもつながりました。

失格もありましたが、失格になったことで、ただ滑るのではなくルールも守らないといけないことを本当の意味で理解できたようでした。貴重な経験になっ

■コーチの感想

「ピーーー！」試合終了の笛が鳴り響き、日本のアスリート、ベンチ、観客席は歓喜の渦に包まれました。2月4日、日本のフロアホッケーチーム「TANTA」が金メダルを獲得した瞬間です。

思えば、ここへ来るまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。事前に行われた練習試合ではSON・東京チームに惨敗し落ち込んだことや、選手が揃わない合宿もありました。また、現地に入ってから怪我や体調不良などが相次ぎ、全員揃って出られた試合は2試合しかありませんでした。この決勝の前日にも、それまでポイントゲッターとして活躍していたアスリートが深夜に体調を崩しています。

しかし、このようなチームの困難のひとつひとつを、TANTAはより結束力を高めることで乗り越えていきました。当初は自分のことすらまなななかつたアスリートも、大会終盤には周りを気遣うような配慮を見せてくれます。一時はホームシックにかかったアスリートも、張り切って試合に集中しています。アス

今回の世界大会を通じて一番強く感じたのは、地区組織における活動の必要性です。SOは「オリンピックス」と複数形で表されます。大きな大会だけではなく、地区で行われる競技会や日常のトレーニング、自立支援プログラムや各家庭での取り組みに至るまで、そのすべてを指して「オリンピックス」と表されるのです。

SOは競技能力の優劣を競うものではありません。活動の場では競技のルールやスポーツマンシップやマナーを日常のトレーニングを通じて学んでいくことが必要です。それには大会に出場するアスリートだけではなく、SOに参加するすべてのアスリートを地区組織とコーチとファミリーが一丸となってサポー

毛利 祐子さん

たと思います。また、スケジュールの変更や、団体行動で、人を待ったり、待ってもらったり、人に合わせるということや、失敗してもふてくされず人にあたらずガマンすること、なにより「しょうがない」と諦めることなど、上手に気持ちを切り替えたと感じました。この大会で一番成長できた点ではないでしょうか。

いろいろな国の人と仲良くまではいきませんが、ピンバッチを交換する機会もあり、楽しい思い出が出来ました。とても楽しかったようで、毎日何度も「またみんなに会いたいなあ」と言っています。

これからもSOはもちろん、他の初めての事にも尻込みせずどんどんチャレンジして、たくさんの経験の中からいろんなことを学んで成長して行ってほしいと願っています。

コーチをはじめ、スタッフの方々、支えて下さったすべての皆様に心から感謝申し上げます。また、応援して下さいみなさまにも、ただただ感謝です。本当にありがとうございました。

戸田武宏コーチ

リート、コーチ一人ひとりとともに、チームがこの短い期間のなかで成長していることを強く実感しました。

そして迎えた決勝の相手は地元韓国。雰囲気は完全アウェイ。「勝ちたい！」お互いの強い思いがぶつかり合い、壮絶な試合が繰り広げられました。

その結果、なんとか接戦を制し、4-2で勝つことが出来ました。それまでほとんど得点のなかったアスリートが決勝で2点を取り勝利に貢献してくれたのも、チームワークの良さを象徴しています。

私自身、日本選手団の一員としてこの世界大会に参加し、フロアホッケーという競技のさらなる魅力、SOの大いなる素晴らしさも改めて教えられました。これからは、この貴重な経験で得られた知見を、日々のSOでの活動へ生かしていきたいと考えております。そして、その活動の中で更に成長を続け、出来るならいつかまた、もう一度あの世界大会に参加したいと思えます。

金山敦コーチ

トしていく必要があります。

さて、今のSON・富山を振り返ってみて、果たしてこのミッションは達成されているのでしょうか。アスリートの意思が反映された活動になっているのでしょうか。現状維持を望む気持ちが働いてはいないのでしょうか。私たちコーチやファミリーが、地域社会からアスリートを閉じ込めている部分はないのでしょうか。今回の大会は韓国国内にも変化をもたらしました。いまや韓国国民の80%がSOの名前を知っています。今回の大会スローガン「Together We Can（一緒なら出来る）」にさらに強い意志を込めて「Together We Will（一緒にやりとげよう）」

■総会開催と感謝状の贈呈式

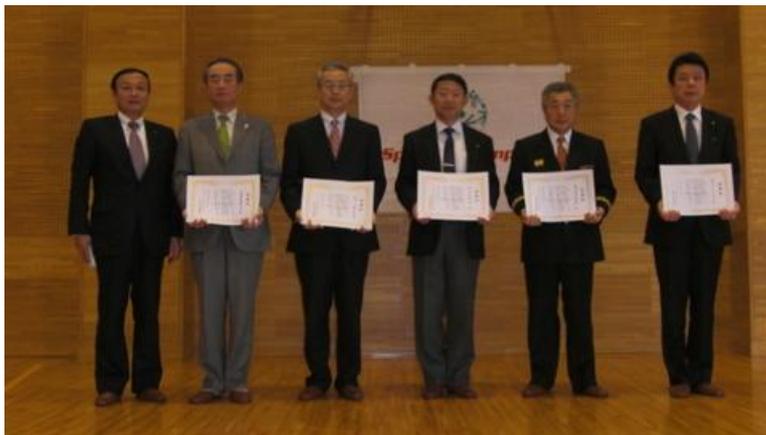
2月3日、富山市障害者福祉プラザ多目的ホールにおいて、SON・富山の定期総会を開催しました。今回、スペシャルオリンピックス日本が公益財団法人へ移行後、初の総会となり、事業報告・予算案、

会則の改正等の事項について審議しました。

総会に先立ち、日頃から、当会の活動に深いご理解を賜り、多大なご支援をいただいている賛助企業・団体の皆様に、感謝状をお贈りしました。



藤井裕久 SON・富山会長が開会の挨拶



賛助企業・団体の皆様



林運営委員長



林会計責任者



上原財務委員長

- 大谷製鉄株式会社様
- 大山観光開発株式会社様
- 三和ボーリング株式会社様
- NPO 法人高岡市水泳協会様
- 株式会社富山グラウジーズ様
- 富山経済会様
- 富山市消防団様
- 富山シティーロータリークラブ様
- 富士ゼロックス北陸株式会社富山事業所様

■ボランティア紹介

スペシャルオリンピックスの活動に参加して

私がスペシャルオリンピックスの活動に初めて参加したのは、昨年の夏期プログラムです。バスケットボールプログラムにコーチとして参加しました。

参加のきっかけは会社の同僚のパソコンのデスクトップ画面でした。そこには、バスケットボールの大会で優勝したときの写真が飾られており、「この写真は何？」というところから始まりました。同僚は「スペシャルオリンピックスとは」というところから、活動内容等について熱心に語ってくれ、とても生き生きとしている様子を見て、興味が湧き、参加してみようと思いました。

初めてプログラムに参加した時、どのように接したら良いのだろうと戸惑いや緊張もありましたが、実際にプログラムが始まると、皆の和気藹々とした雰囲気にも和まれ、当初の不安は吹き飛び、単純に楽しむことができました。そして毎回の活動が楽しみになりました。回数を重ね、少しずつ慣れてきた頃、いつもは自分からアスリート達に近寄って話し掛けたりしていたのですが、アスリートの方から声を掛けてくれるようになり、自分もチームの一員に

なれたと実感しました。

1シーズンを通して、日常のトレーニングや競技会、愛知夏季地区大会などたくさんのイベントがあり、その中でアスリート達の個性に触れたり、成長を感じることができました。また競技会や大会で各競技に参加したアスリート達が、実力を発揮し、成果を挙げる様子を身近で見て、アスリート以上に自分が喜んでいただいていたような気がします。

プログラムに参加し、アスリートやボランティアの皆様ととても有意義で貴重な経験をすることができました。私にとっては、外で見ているだけでなく、一緒にバスケットボールをできたことが一番の喜びです。

スペシャルオリンピックスは、いろんな“特別”を感じられる場所だと思っています。

金田 祐



今号から新登場の企画「オンリーワン☆アスリート」は、アスリート委員会のメンバーがアスリートを取材して紹介する企画です。アスリート委員会のメンバーが、企画から取材までを担当します。

■オンリーワン☆アスリート No.1

西田さんは、みんなでプレーをすることが楽しいそうです。フロアホッケーの次の目標は、もっとパックをとられないように足を速くすることです。S0での1番の思い出は、去年の愛知大会でがんばったことです。S0でチャレンジしてみたいことは、もっとS0のスキーをうまくなりたいです。西田さんは、「これからもがんばります！」と言っていました。



西田さんは、いろいろなプログラムにチャレンジしています。これからもご活躍を期待しています。

なまえ にしだ ゆま
 ☆名前：西田 優真さん
 ねんれい さい こうこう ねんせい
 ☆年齢：16歳（高校2年生）
 きょうげき ねん
 ☆競技歴：7年
 さんかきょうぎ
 ☆参加競技：フロアホッケー・アルペンスキー・サッカー・水泳・テニス
 すいえい
 ☆参加大会：BG富山（サッカー）、BG長野（アルペンスキー）、愛知夏季地区大会（サッカー）

☆初めてアスリートの取材をして、少し緊張しました。これからもたくさんのアスリートに取材をしたいです。（杉森・戸田）

☆フロアホッケーに体験参加をした学生さんに取材を受けました。取材を受けるのは、緊張しました。でも質問にはきはきと答えることができてよかったです。（中山・岩白）

＜アスリート委員：杉森・岩白・中山・戸田・長久＞

■クリスマス会

12月15日（土）SON・富山のクリスマス会が富山電気ビルで開催されました。ボランティアさんにも手伝ってもらい、サンタさんが持って来てくれたプ

レゼントを使ったビンゴゲームを行いました。続いて歌の発表です。ファミリーのお父さんもお母さんもみんなで鳴子をならしました。



■冬季競技会

●フロアホッケー

3月9日(日)、フロアホッケーに競技会が行われました。水内副会長の開式の挨拶につづいて、アスリート代表がアスリート宣誓をしました。

水色チームと黄色チームに分かれて行われた競技会では、19-7で水色チームが勝利をおさめました。惜しくも敗れてしまった黄色チームのみんなも頑張

りました。試合後にはコーチによるエキシビションマッチも行われました。

競技会の後にはサンキューパーティーが行われ、アスリートからコーチに感謝状を贈りました。みんなでオムライスとシュークリームを頂きました。



開会式です



健闘をたたえてハイタッチ!



全員で記念写真

●スノーシューイング

3月10日(日)、スノーシュープログラムの競技会が行われました。競技会に先立ち、前日には山野スポーツセンターにて宿泊体験を行いました。豪華な夕食後、翌日の競技会に向けて、最終ミーティングを行いました。

当日は、まさかの雨。そしてガスが出て視界も悪い

中、競技が開始されました。最悪のコンディションの中での競技会でしたがみんなよく頑張りましたね。

今季のスノーシュープログラムは山歩きを楽しみました。自然の中を歩くこと、雪景色の中を歩くこと、スノーシューを履いてサクサク歩くこと。すべてが新鮮でとても楽しかったですね。



舗田監事の開会の挨拶



競技開始



芝田コーチよりご褒美

●アルペンスキー

3月3日(日)ひな祭りの日に、立山山麓・極楽坂スキー場で、アルペンスキー競技会が開催されました。

舗田監事の挨拶に続いて、世界大会に出場の毛利さんがアスリート宣誓をしました。競技では、今年から参加のアスリートも、昨年に続いて参加のアスリート

も全員大きくレベルアップしました。

当日は、よい天気に恵まれ、大きなトラブルもなく、競技会及びサンキューパーティーほか、今シーズンの全てのプログラムを終了することができました。



今年初めてのアスリート



豪快な滑り



プレゼンターは、大山観光開発(株)北村慎一様

■賛助者紹介（クアトロブーム小杉アミューズメント様）

今回ご紹介させて頂くのは、クアトロブーム小杉アミューズメント様です。JR小杉駅前・アルプラザ小杉に隣接したアミューズメント施設で、ボウリング26レーンやカラオケ、ビリヤード、卓球、ダーツなどを楽しむことができます。ユニークなCMで名前をご存知の方も多いためと思います。SON・富山には、ボウリングプログラム・競技会の会場として利用させて頂いているほか、2010年のブロック大会の際にもご協力いただきました。また、アスリート委員会主催の交流会の際に、カラオケ会場としても利用させて頂きました。

かつてはどの街にもボウリング場がありました、徐々に数を減らしつつあります。そんな中でも、クアトロブーム様では客層の70%が学生と若い世代からも支持されています。特に熱投（ネットー）ボウリング甲子園という、学生限定のボウリング大会へは、150チームがエントリーする大きな大会になっています。明るい店内や、週末夜のコスミックタイム、充実したドリンクコーナーをはじめとして、幅広い年



広いカラオケルームパーティーでも安心です。

この建物の2階がアミューズメントコーナーです。



齢層が楽しめる施設になっており、ほぼ毎日開催される大会では、小学5年生から80代まで多くの参加者がいます。

また、キッズコーナーにはトランポリン、ボールプールなどもあり、アルプラザでのショッピングとあわせて家族で楽しむことができます。ファミリー向けのバックも用意されており、大人800円・子ども500円で2ゲーム遊ぶことができます（土日祝日、学校の長期休業日の指定時間など。シューズ代別）

一方、アミューズメント施設の運営の傍ら、清掃活動や各種のチャリティー活動、ペットボトルキャップの回収やプルタブ回収などのエコ活動にも積極的に取り組んでおられます。SOのプログラムの際にも、30分間の投球練習時間をご提供頂くなど活動にもご理解を頂いています。これもブロック大会の際に、会場とのご縁が深まったことがきっかけとなっているとのこと。

このゴールデンウィーク、ご家族で出かけてみてはいかがでしょうか。



開放的で明るいレーンが人気の秘密

939-0341 富山県射水市三ヶ 2602

TEL : 0766-57-8200

HP : <http://www.quatro-boom.com/>

■ボランティア紹介

「ボランティア活動との出会い」

私は大学時代に障害を持つ小学生～高校生の子どもたちと遊ぶというボランティア活動に参加していました。子どもたちは高校を卒業してしまうとその会からも卒業してしまうため、「子どもたちの遊び場がなくなる」「就職して働き出しても遊ぶ場所がないから働く意義を理解できずすぐやめてしまう」と保護者の方が言っていたのを覚えています。それを聞いて私は卒業した子どもたちをさらに何かで手伝えることがあればいいなと思っていました。思うばかりで何も行動できず10年くらいが過ぎたころ、テニスのヘッドコーチ中井さんからSOの存在を教えていただきこれはとても良いチャンスを貰ったと思いました。

アスリートが怪我をしないように見守る簡単なお手伝いと聞き、とりあえず参加してみました。何もわからない状態でしたが、ファミリーや役員の方々にサ

ポートしていただきアスリートとも仲良くなり楽しく参加させていただきました。参加するたびに、テニスが上手になっていることや、アスリート同士でいろいろ注意しあったりしていることなどを見て、アスリートたちのテニス以外の成長も見られて微笑ましく思いました。最後の競技会で緊張する場の中アスリート達が日ごろの練習の成果を発揮しているところを見てすごく嬉しくなりました。競技会終了後はアスリートからのありがたい感謝状を頂き、今年も参加したいと思っています。

吉村 美咲



■事務局から

もうすぐ5月というのに寒い日が続いています。いよいよ2013年の夏季プログラムがスタートします。

夏季プログラムと並行して、6月29日・30日には自立支援を目的としたサマーキャンプが開催されます。来年は夏季ナショナルゲームが福岡で開催されます。ナショナルゲームへの参加はすべてのアスリートの権利であるとともに、その期間の宿泊が大きなハードルにもなります。今回は各プログラムからもコーチが参加します。皆さんご参加をお待ちしています。

また、5月12日には、ゼネラルオリエンテーショ

＜賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2012年11月21日～2013年3月31日)＞

敬称略

上原 恵	杉森 喜三郎	素谷 孝子	素谷 宏	中野 裕子		
鍋谷 悟	藤井 裕久					
石橋 健太	金山 弘之	蔵島 諒太	中山 スミエ	本田 繁	宮野 光正	腰田 恵子
井尻 貫治	川瀬 孝義	高瀬 祐子	奈辺 賢治	前田 恵佑	宮野 明美	渡辺 隆志
市田 露子	工藤 司	高広 阿左代	奈辺 晴美	前田 万里子	村上 朝子	渡辺 守人
岩松 文枝	下条 由季子	宝島 美里	林 慎二	牧野 玲子	毛利 圭輝	
岩瀬 晴菜	下条 竜一	宝島 恵子	福島 朝子	巻端 凌生	山崎 政行	
岩瀬 全吉	坂野上 満	瀧脇 隆志	福島 茂次	松岡 英治	山本 幸子	
尾塩 沙加恵	佐藤 昌子	田口 美里	福島 志美子	三津島 淳	山本 松昭	
尾塩 真子	佐藤 和彦	常木 洋美子	福島 亘	三津島 涉	横井 一成	
小野寺久美子	鈴木 基文	中村 ゆかり	福田 孜	三松 隆之	吉岡 浩	
小栗小児科医院				日本海ガス株式会社		
大山観光開発株式会社		(株)新栄電設		(株)富山ガスエンジニアサービス		
有限会社 山勝						

賛助金・寄付金振込先
 スペシャルオリックス日本・富山
 (日本は、「ニッポン」としてください。)
 北陸銀行本店(店番101)、普通口座 5308370
 ゆうちょ銀行 00720-0=38833

賛助金
 <個人> 一口 3,000円
 <企業・団体> 一口 10,000円

ありがとうございました。

※お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスをお願いします。



未来の地球を支える子供たちへ...

Kids'ISO 14000プログラム

Kids'ISO14000プログラムは、家庭の身近な省エネ活動を通じ、自ら進んで環境保全活動に取り組める子供達を育成することが狙いです。

私たち富士ゼロックス北陸は、この趣旨に賛同し、近地域の小学校におけるプログラム実施をサポートしています。



富士ゼロックス北陸株式会社は、スペシャルオリックス日本・富山の活動を応援しています。

富士ゼロックス北陸株式会社
 富山事業所/富山市新桜町5-3
 TEL: 076-431-2121

1年間、応援ありがとうございました!

おかげさまで、富山グラウシーズは過去最高成績でレギュラーシーズンを終わりました。フレイオフ地元開催も実現し、日本一を目指し戦います。これからも全力で戦い続け、富山を熱くします! 今後とも、応援よろしくお願ひします!